

幸主名馬尊の由来

治承四年（一一八〇年） 鎌倉の源頼朝公は、生唼（白馬）と磨墨（黒馬）という二頭の名馬を持っていました。ある日、梶原源太景季という若武者が「殿、京への一番のりはこの私が。」と申し出て、磨墨を授かりました。翌日には、佐々木四郎高綱という若武者が「私が先陣を切って突き進みます。」と申し出て、生唼を授かりました。

頼朝公は、頼もしい二人の姿に二頭の名馬を授けました。ご存知、宇治川の先陣争いです。後に活躍した奥州（東北地方）平定の帰路、ここ五霞町小福田の「する墨の池」に磨墨が立ち寄り、体を癒したといわれています。その時に景季が読んだ一句「鎌倉路する墨池の 秋の月」の歌が残されています。一方、傷を負った生唼はこの附近までたどり着きましたが、力尽き息をひきとってしまいました。先人は、生唼の冥福を祈り、墓碑を建立し、江戸時代には名馬尊として拝殿を建て、毎年一月と四月の十九日を祭礼の日と定め、馬の安泰を願いました。

幸主名馬

平成二十八年三月

管理者 氏子一同

五霞町教育委員会